



第37回  
読書感想文  
コンクール

作品集 2023

利尻富士町立鬼脇公民館

2023 9.19  
T.TATSUMI



## 第三十七回 読書感想文コンクール作品集の発刊にあたって

利尻富士町教育委員会

教育長 吉田 秀昭

この「読書感想文コンクール作品集」は、今年で三十七回目の発刊となりました。本年度のコンクールには、小学生三十八編、中学生四十四編、合計八十二編の応募をいただき、その中から優秀作などに輝いた作品二十五編を一冊にまとめました。

時代の流れとともに、子どもの読書活動等に対する支援や本事業の意義が問われています。そのような中で、本年から審査体系を見直して事業を継続しています。本を読み感想を書くといった大人でも難しい課題を宿題としているのは、読書の楽しさを体験することだけでなく、内容を頭の中で整理して言語化することが、得た知識や情報を記憶に定着させるに効果的だからでもあります。また、この読み書きや他の相手に伝える力は、本町としての課題でもあります。

子ども読書プラン作成時のアンケートで九割の子どもが「本を読むことは大切である」と認識していますが、「家では月に一冊も読んでいない」「子どもは三割となっています。本に触れる機会が減る夏休みに、このコンクールを通して一冊の本と出会い自分の言葉にして伝えることができた今回の経験が、個々の成長にとって有意義な時間となっていれば嬉しく思います。

今後もコンクールを通じてより多くの子どもたちが読書の楽

しやしやすいすばらしいさを体験することができるよう、事業内容の充実を図るとともに、この作品集が、より多くのみなさまに読んでいただけることを願っています。

おわりに、時節柄ご多忙のなか本事業の周知から審査、表彰に至るまでにご尽力いただいた関係各位に心から感謝申し上げます。すとともに、今後とも多くの子どもたちの個性、可能性を引き出すため、読書活動の推進にご尽力いただきますようお願い申し上げます。発刊のことばといたします。



# 【作品集 目次】

## 小学校一学年の部

☆ 優秀作

『ぜったいにおしちやダメ?』

利尻小学校 一年 土上 ちがみ ひかり・・・ 4

## 小学校二学年の部

☆ 優秀作

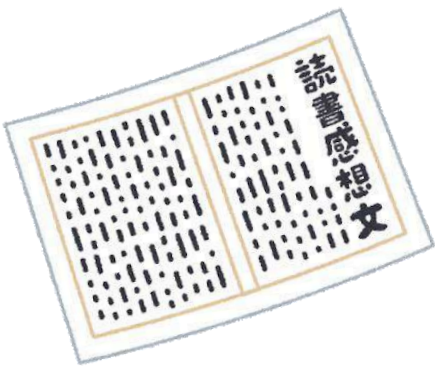
『ほねほね』をよんで

鴛泊小学校 二年 川村 かわむら ももは 桃々葉・・・ 5

★ 佳作

『かあちゃん取扱説明書』を読んで

鴛泊小学校 二年 大関 おおぜき ゆうか 夕楓・・・ 5



## 小学校三学年の部

☆ 優秀作

『先生、しゅくだいわすれました』

利尻小学校 三年 土上 ちがみ 凌央 りょう・・・ 6

★ 佳作

『ハウルの動く城』を読んで思ったこと

利尻小学校 三年 浅岡 あさおか 楓媛 くれん・・・ 6

★ 奨励賞

『おじいちゃんとおぼくのがんこ合戦』

利尻小学校 三年 小中 こなか このん 心暖・・・ 7

## 小学校四学年の部

☆ 優秀作

『雨ふりマウス』

利尻小学校 四年 牧野 まきの たいき 泰希・・・ 8

★ 佳作

『お昼の放送の時間です』を読んで

鴛泊小学校 四年 川村 かわむら ゆずき 柚珠月・・・ 8

★ 奨励賞

『先生、感想文、書けません!』

利尻小学校 四年 佐藤 さとう はると 陽翔・・・ 9

小学校五学年の部

☆ 優秀作

『ライト兄弟』を読んで

鴛泊小学校 五年 須田 ひまり・・・ 10

★ 佳作

『願いがなかうふしぎな日記』を読んで

鴛泊小学校 五年 岩木 莉那・・・ 10

★ 奨励賞

『ココロ屋』を読んで

利尻小学校 五年 山谷 詩葉・・・ 11

小学校六学年の部

☆ 優秀作

『藤原道長』を読んで

利尻小学校 六年 飯田 乃唯・・・ 12

★ 佳作

『余命0日の僕が、死と隣り合わせの君と出会った話』

鴛泊小学校 六年 谷村 柗太・・・ 13

★ 奨励賞

『あいしてくれてありがとう』

利尻小学校 六年 川村 旭陽・・・ 14



中学校の部

☆ 優秀作

世界はカラフルだ

鴛泊中学校 二年 村谷 音羽・・・ 15

農業は楽しい仕事

鴛泊中学校 三年 種谷 海璃・・・ 16

★ 佳作

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』

鴛泊中学校 一年 工藤 結菜・・・ 17

『楽隊のうさぎ』

鬼脇中学校 二年 澤田 奈実・・・ 19

『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』を読んで

鴛泊中学校 三年 高橋 うた・・・ 20

★ 奨励賞

ぶつかり合い

鴛泊中学校 一年 須田 海司・・・ 21

前向きに考える

鴛泊中学校 一年 中山 智晴・・・ 22

健康について

鴛泊中学校 一年 福士 希愛・・・ 23

『清浄島』を読んで

鴛泊中学校 二年 黒川 結凧・・・ 24

『聲の形』を読んで

鴛泊中学校 二年 府録 あかり・・・ 25

# 小学校一学年の部

## ☆ 優秀作

『ぜったいにおしちゃダメ?』

利尻小学校 一年 土上 ひかり



このほんにはボタンがついています。ボタンをおすとたいへんなことがおきるので、ぜったいおしてはダメとほんのなかのラリーにいわれました。わたしはすぐおしてみたくなりました。

ラリーもがまんできなくてボタンをおしてしまいます。そうするとラリーのからだはきいなくなったりみずたまになったり、なかなかもとにもどりません。たいへんなことが、おこってしまったとおもっていると、おなかをこするともとにもどることができました。わたしは、よかったですとおもいました。

さいごはとくべつにすきなだけボタンを、おしていいよといったので、わたしはボタンをなんかいもおしました。たいへんなことがおこらないか、すこしドキドキしましたが、だいじょうぶでした。なんでラリーだきたいへんなことがおこったのかわかりません。みなさんもそのボタンにはきをつけましょう。なにかがおこるかもしれません。

\*こうひょう\*

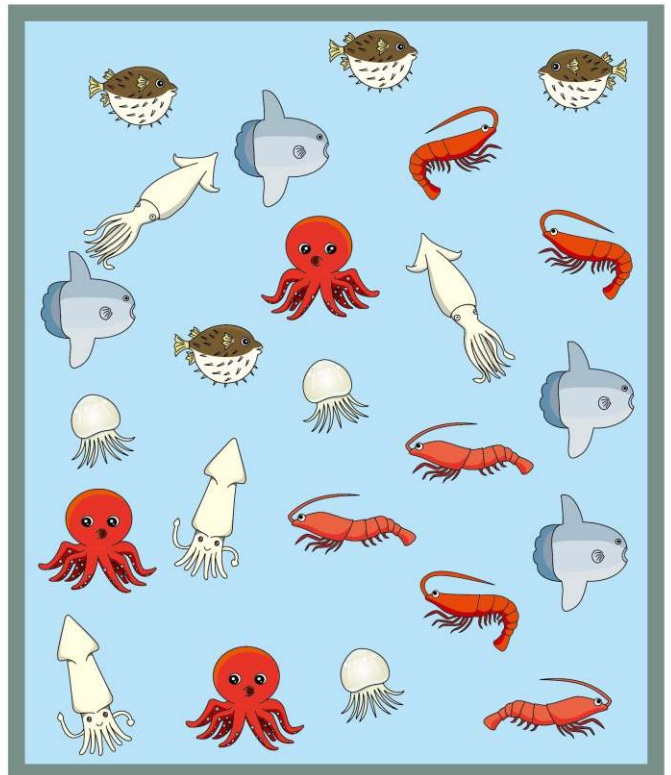
楽しく本を読んだことが活き活きと書かれています。文章のはじまり方とおわり方が、とても煮かれました。すてきな書き方だと思いました。



### 反転間違い探し

右の絵は左の絵を鏡に写しています。間違いを8つ探しましょう。

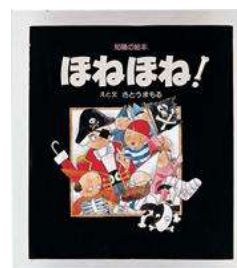
ねん くみ なまえ



# 小学校二学年の部

☆ 優秀作 ゆうしゅうさく

『ほねほね』をよんで



鴛泊小学校 二年 川村 桃々葉 かわむら ももは

わたしがこの本をえらんだりゆうは、体の中がどうなっているのか分かるかなあと思ってたこの本をえらびました。

いろんなほねのやくわりを絵やことばでわかりやすくしようかしている本でした。

たとえば「こつばん」は、やわらかい「ないぞう」を入れておいたり、だじな赤ちゃんをそだてるためのゆりかこのやくめをするということが書いてありました。

わたしがおもしろいと思ったのが、足のほねです。

かたがききょうりゆうの足みたいだし、小さいのに体をささえているからです。

体の中のほねをたくさんしれてよかったです。

\*こうひょう\*

あらすじや気になったところ、本を読んだあとの感想がわかりやすくまとまっています。本を選んだ理由にはつきりとした目的があるのも良いですし、面白かった部分についてしっかり理由を書けているのも良いですね。

★ 佳作 かさく

『かあちゃん取扱説明書』を読んで



鴛泊小学校 二年 大関 夕楓 おおせき ゆうか

だい名がおもしろそうだったので、「かあちゃん取扱説明書」という本を読みました。

まいにち、てつやくくんが母ちゃんにたくさんおこられていたから母ちゃん取扱説明書を作るお話です。

いちばんおもしろかったところは、てつやくくんのじゆぎょうさんかんでみんなのお母さんがいるのに母ちゃんにしかられていたところです。わたしだったら、母ちゃん取扱説明書を作らないでそのままにしておきます。

なぜかというと、やさしすぎると、こわいからです。

\*こうひょう\*

本の題名から「おもしろそう」と感じ取れる感性、これからも大事にしてほしいです。「わたしだったら」と主人公と自分を置きかえて感想と理由を書けているのも良いですね。



# 小学校三学年の部

## ☆ 優秀作

『先生、しゅくだいわすれました』



利尻小学校 三年 土上 凌央  
つちがみ りょう

ぼくのえらんだ本の題名は、『先生、しゅくだいわすれました』です。この本をえらんだ理由は、題名がおもしろかったのと、学校で同じようなことがあるかもしれないと思ったからです。

この本は、クラスみんながじゅんばんにしゅく題をわすれて、その理由を楽しくみんなにせつめいするお話です。

ある日、主人公が、しゅく題をわすれてうそをつくことから始まります。しゅく題でんけん係のりにしゅく題をだしてないことを言われ、たんいんのえりこ先生に理由を聞かれます。主人公は理由を言いましたが、すぐにうそだとばれてしまいます。しかし、先生は「楽しいうそだったらいよいよ。」というのです。ぼくはしゅく題をわすれたのにいいのかなと思いましたが、ぼくだったらうそをついたことをあやまって、明日ぜつたいにやってきましたと言うと思います。なぜ先生は楽しいうそだったらいいのか気になりました。その日からこのていあんで、一日一人しゅく題をじゅんばんにわすれて、楽しい理由を言い合うことが始まりました。みんなはしゅく題をわすれてもいいことに大よろこびです。ワクワクしました。はっぴようは朝の時間に決まりました。みんなのはっぴようは宇宙人が出てきたり、えんぴつが動いてしゅく題たり、とてもおもしろい理由ですごく考えられたお話だと思っています。そして先生はかならず、「それならできなくてもしかたないわね。」と言います。

そんな毎日がつづいたある日、先生がしゅく題のプリントを作るのをわすれました。先生も作るのをわすれた理由を楽しく話してうそなんだけど本当にあったようなとてもおもしろい話でした。クラスみんなは「そりゃあ、プリントつくるのをわすれてもしかたないね。」と言い、いつもは先生に言われていることを、こんどはみんなが言い、教室の中がわらい声でいっぱいになりました。とても楽しそうでいいなと思いました。でもみんな楽しい理由を考えよ、しゅく題をやる方が楽だと気づいたみたいです。

みんなの楽しい理由がたくさんあって、ぼくならどんな理由にしようかと、色々と考えてみました。さいごに自分で考えて、はっぴようするということが、先生がしゅく題をわすれてもいいよと言った理由だったのではないかと思いました。これでおわりです。

### \*講評\*

主人公と似ているところと違うところを考えてみたり、もし自分が主人公だったらどうするかを想像したり、物語の世界に入り込んで楽しんでいたり、とが伝わってきました。「おもしろい」場面ではなく、「ほかの人につたえたいおもしろい」場面という切り口で感想を書いているのも良いですね。

## ★ 佳作

『ハウルの動く城』を読んで思ったこと



利尻小学校 三年 浅岡 楓媛  
あさおか くれん

わたしがえらんだ本は『ハウルの動く城』です。なぜその本をえらんだかというと、わたしはジブリが好きでその中で好きなのがハウルの動く城なのでえらびました。登場人物はハウル、ソフィー、カルシファー、まじよ、ヒン、マルクルです。主人公のせいかくやすごいところは、ハウルはてききたらまほうでたおすことができ、だいじょうぶなのがつすごいです。



どんなお話かというと、ハウルはソフィーにあっていっしょに家にすんでさいごにできをたおしに行くお話です。ほかの人につたえたいおもしろい場面はソフィーがまじよにやられておばあさんになるところです。なぜならまじよにやられておばあさんになる顔がおもしろいからです。あともう一つはマルクルがまほうを使っておじいさんみたいになることです。なぜなら、だれかきた時、まほうを使ってその顔がおもしろいからです。

本と自分をつなげるなら主人公とにているところは元気なところですよ。主人公とちがうところは、まほうが使えるところがちがいます。自分が主人公だったらまほうを使って家であそんでいると思います。

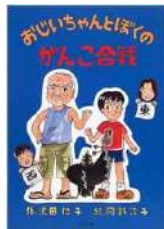
さいごに本を読んで思ったことは、ハウルは、まほうでできけんがいっぱいあるところで大好きなソフィーを守るためにいっしょけんめいたたかっているんだなと思いました。まほうを使えたらいいなと思います。

＊講評＊

あらすじを簡単にまとめた上で、さらにいていねいに物語について説明ができています。内容をまとめるのが上手だなと思いました。自分が疑問に思ったことや気になったことを取り上げ、自分なりによく考えてその答えを見つけているのがすばらしいです。

★ 奨励賞

『おじいちゃんとぼくのがんこ合戦』



利尻小学校 三年 小中 心暖

わたしが読んだ本は「おじいちゃんとぼくのがんこ合戦」です。なぜこの本にしたのかというと題名がおもしろかったからです。登場人物は、おじいちゃんと、ぼくと、九かん鳥のゴンベと、お母さんとお父さんです。

ある日、おじいちゃんと九かん鳥が大きかからぼくの家にひっこしてきました。おじいちゃんがひっこしてきてぼくはいやでした。なぜかというと、今までは、パパママがたすけてくれたりほしいものはなんでもかってくれてたりあまやかされていたのに、じいちゃんが来たらくつはならべろ、ちゃわんは自分であらえ、朝は六時半におきれ、といわれぼくはさいあくだえんまじじいめと思いました。わたしもこのおじいちゃんがひっこしてきたらはいやくかえってくれーと思います。おじいちゃんがぼくに、えんぴつは自動じゃなくって小刀でけずれといっておしえてくれました。

そしておじいちゃんが入いんすることになって九かん鳥はぼくがそだてることになりました。おじいちゃんがいったとおりにおせわしてたけど九かん鳥はちようしがわるくなっていました。パパにおまえのせいだ、はなしかけてあげなかったからだよ、といわれぼくはくやくしてなみだがあふれました。そのあとも九かん鳥のおせわはつづけました。九かん鳥は元気になってぼくはうれしくなりました。お父さんがきてびょういんにきました。おじいちゃんもぼくきてくれたのか、といいました。おじいちゃんがかえってきて九かん鳥がじいちゃんたいいんおめでどうといっじいちゃんはないてよろこびました。九かん鳥がじいちゃんたいいんおめでどうといえたのはぼくのおかげです。なぜならぼくがことばをおしえたからです。そしておじいちゃんは九かん鳥に元気かときき九かん鳥は元気、元気、といいました。それから九かん鳥とおじいちゃんとはなしていました。ぼくはうれしかったです。

この本を読んで思ったことは、ぼくはさいしょおじいちゃんがきらいだったけど、いろいろおしえてくれるうちに好きになってきました。わたしもいろいろなものにきょうみをもってチャレンジしたいと思いました。みなさんも読んでみてください。

＊講評＊

「ぼく」が「おじいちゃん」に対して持っていた気持ちやその変化のみちすじにふれながら、物語全体を説明できています。「いろいろな物にきょうみをもってチャレンジしたい」と本を読んで感じたことを、ぜひ取り組んでいってほしいです。

# 小学校四学年の部

## ☆ 優秀作

### 『雨ふりマウス』



利尻小学校 四年 牧野 泰希  
まきの たいき

ぼくは「雨ふりマウス」とはどんなねずみなのか気になったこと、そして今年雨の日が多いのでびったりだなと思いいこの本をえらびました。

この本は、新しい家に引っこしてきたミキトが三匹の小さなねずみとヤナギの精のミドリさんと出会い、次々と不思議なできごとが起きるお話です。

ヤナギの精や雨ふりマウスは、ミキトにだけ見えてミキトのまわりだけに不思議なことが起こります。はじめのうちはおどろいてるけど、どんどん不思議なことが起こっていくうちになれていっていいいにものごとを考えられるミキトはすごいなと思いました。

もしぼくのまわりで、ミキトに起こったようなことが起きたとしたらかわいと思うし、ドキドキしていいいには考えられません。自然は時にはすごい力をはつきするということを知り、雨の日にでかけてみたら楽しい発見があるかもしれないワクワクした気持ちになりました。

ミキトは最後に家が水びたしになってまた引っこしてしまつてヤナギの精と雨ふりマウスとお別れしてしまうけれどまたいつかどこかで会えるといいなと思いました。ミキトに起こった不思議なできごととは少しこわいし、大変そうだけど、ぼくもそんな不思議な体験を少しだけしてみたいと思います。雨の日がつづいているので、なにかおもしろい発見をしてみたいです。

#### \*講評\*

本の題名から「どんなねずみなのか」と想像をめぐらし、「今年雨の日が多いのでびったり」と地域の天候に合わせて本を選んでるのがすばらしいです。主人公ミキトと寄り添いながら物語を読み、その気持ちの変化にも気付いていきますね。ミキトの身に起こった不思議なことを、「こわいし、大変そう」と思いますが「少しだけ」体験してみたいという好奇心も伺えました。

## ★ 佳作

### 『お昼の放送の時間です』を読んで



鴛泊小学校 四年 川村 柚珠月  
かわむら ゆずき

私がこの本をえらんだ理由は、「お昼の放送の時間です」という題名を見て、自分も放送委員なので、どんなお話か気になったからです。

このお話は、主人公のかえでという四年生の女の子が放送委員になる事から始まります。かえでは、仲の良い友達とペアになりたかったのに、苦手なこうへいという男の子とペアになってしまいます。でも、いろいろな事があつてこうへいと仲良くなっていくお話です。

こうへいには、ぜんそくという病気を持った弟と、学校の調理員のお母さんがいて、水曜日は弟が病院に通うため、お母さんは仕事を休まなければいけません。こうへいは、この事を最初はだれにも言わずにいよいよしていました。放送委員の仕事も、

「水曜日はダメ。金曜日が良い。」

と云つてかえでと同じ金曜日の放送委員になりました。

私は、最初からそう言ってくれればこうへいの事をもっと早く理かいてきたかもしれないのなと思ひました。なぜ水曜日がダメで金曜日が良いと言つたのか、理由が分かつて私もすっきりしました。

かえでもその理由を知つてから、こうへいの事がどんどん苦手ではなくなつていきます。

放送委員の仕事もこうへいと話し合つて、どんどん楽しくできる様になつていきます。

この本は、苦手な人でも協力すれば仲良くなれる事をあらためて教えてくれました。

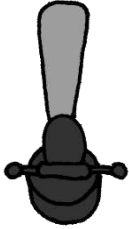
これから私も苦手そうな人でも最初から苦手と決めつけず協力し合ったり、話し合ったりして、せつきよく的に仲良くなりたと思います。とても面白い本だったので、みなさんもぜひ読んでみてください。

＊講 評＊

「自分も放送委員なので」と自分のいま行っていることと結びつけた本選びが良いですね。主人公かえでが感じていた疑問や気持ちに共感し、自分はどうしていきたくか本から得たことがわかりやすくまとめられています。読後の感想で書いていた「苦手そうな人でも最初から苦手と決めつけず」という部分は、とても良い気付きだと思います。ぜひ大切にしていってほしいです。



ねえ  
だれもみてないから  
ちよつとだけ おしちやいなよ  
おしちやおうか？  
おしちやおう！



★ 奨励賞

『先生、感想文、書けません！』

利尻小学校 四年 佐藤 陽翔 さとう はると



ぼくがえらんだ本は『先生、感想文、書けません！』です。なぜこの本をえらんだかというタイトルが面白そうだったからです。主人公は気が弱いせいかくです。登場人物はみずかさん、りょうたさん、あかねさん、タクちゃんが出てきます。どんなお話かというと感想文が書けなくて本を作った感想文を書くお話です。

もしぼくがみずかさんだったらぼくはみずかさんにていてすぐ泣いてしまいます。そしてちがうところは怒った人がどこかにいっちゃってすぐにはおいかげずれいせいになってからおいかけます。そして自分は本がおわりのところでおわります。

みんなに伝えたいところはタクちゃんが平和のためにいつも神様にねがっているところです。なぜならふつうは自分のねがいを言うからです。二つ目は、感想文を書けなくて本を作るなんてすごいと思いました。なぜならふつうは本を作ろうなんて思いうかばないからです。

さいごに、本を読んでみて自分で作った本でちゃんと感想文をしっかり書いてとてもいいお話だと思いました。自分はみんなを守るようになりたいです。

＊講 評＊

「ぼくがみずかさんだったら」と登場人物と自分を比べながら物語を楽しめたのだろうと感じました。「みんなに伝えたいところ」という本を読みたくなるような紹介の仕方も良いです。文章の中に読点「、」をもう少し入れると読みやすくなるので、意識してもらえるといいなと思います。

# 小学校五学年の部

## ★ 優秀作

### 『ライト兄弟』



鴛泊小学校 五年 須田 ひまり

私は、ライト兄弟が飛行機を造って飛ばしたのは知っていましたが、どのような人だったのか、どのように飛行機を造ったのかが気になったのでこの本を選びました。

このお話は、小さいころから、こわれたおもちゃなどを分解するのが大好きな仲良し兄弟が、人類はじめての動力つき飛行機を造り、飛ばす。というお話です。

私は、この本を読んで心に残った言葉があります。

「飛んだーぼくたちのグライダーが、飛んだんだ！」

という言葉と、その後に行った、

「来年は、もっと性能のよいグライダーにして、またこよう」

という二つの言葉です。私は、ライト兄弟がそのようなことを言ったのを知って、『すごいな』と思いました。なぜなら、たくさん勉強して人を乗せてグライダーを飛ばしたからです。そして、グライダーの飛行が成功したから終わりではなく、もっと高みを目指していたからです。

私はライト兄弟とは違い、やりたかったことや、やってみたいことができたから、レベルが低くても満足してしまいます。でも、それだと『夢』には届かないことが、この「ライト兄弟」を読んでわかりました。ライト兄弟がたくさんの経験を積みかさねて国に認められたように、私も国に認められるまではいかなくてもいいけど、自分がすごいと思えるくらいはねばり強くやるということ、わすれずに、『ライト兄弟』を読んで学んだことを生かして、これから生活していきたいです。

## \*講評\*

どのような人が飛行機を作ったのか、そしてどう作ったのかについて関心を持って本を選ぶことができます。心に残った言葉に対してどうして「すごい」と思ったのか、理由を書いた上で自分ならどうかまでを書けているのも良いですね。「自分がすごいと思えるくらいはねばり強くやる」という部分から、努力し続けることの大切さを本からしっかりと読み取ったのだとわかりました。

## ★ 佳作

### 『願いがかなうふしぎな日記』を読んで



鴛泊小学校 五年 岩木 莉那

わたしがこの「願いがかなうふしぎな日記」という本をえらんだ理由は、タイトルを見ておもしろそうだなと思ったからです。

この本は小学六年生になった主人公の光平がいろいろなことに挑戦する話です。わたしがこの本を読んですごいなと思ったことが二つあります。

一つめは、光平が苦手の鉄棒を一生けん命練習して新しい技ができるようになったところです。失敗してもあきらめずに努力してすごいなと思いました。

二つめは、光平が読書感想文を書きおわったところです。投げだしそうになる気持ちをおさえて書いているところがすごいなと思いました。自分だったらいやになったらすぐにやめてしまおうと思います。

わたしはこの二つのことから毎日コツコツ努力すること、集中力はとても大切なことなんだなと改めて思いました。わたしは毎日コツコツ努力することは得意だけど、集中力があまりない気がするので光平を見習おうと思いました。

この本のあとがきには、「失敗は成功のもと」ということわざがあります。失敗しても、大切なのはあきらめないこと。失敗の原因をさがし、改良を加え、また挑戦することです。夢に向かって羽ばたくために、あなたも「一日一

歩」の小さな歩みを続けてください。と書かれていました。わたしはそれを読んでたしかにそうだなと思いました。失敗してもあきらめずに、失敗した原因をさがし、改良して何度でも挑戦することはとても大切なんだなと思いました。

わたしはこの本を読んでわかったことがたくさんあるのでそれを生活にいかしていきたいです。わたしだったら、願いがかなうふしぎな日記に「ねこともつとなかよくなった」と書きたいなと思いました。

#### \*講評\*

あとがきまでしっかりと読み込んでいるのが印象的でした。作者が伝えたかった想いをしっかりと受け取ることができたのではないかと思います。主人公光平の挑戦を追いながら「すごいなと思ったこと」を二つ挙げ、それぞれから「毎日コツコツ努力すること」と「集中力がとても大切」という学びを得たことがよくわかります。それを生活に活かしたいという思いも伝わってきました。

## ★ 奨励賞

### 『ココロ屋』を読んで



利尻小学校 五年 山谷 詩葉

私の選んだ本は「ココロ屋」というお話です。作者は、梨屋アリエさんです。なぜこの本を選んだかというと、ココロ屋というタイトルが気になったからです。私はココロ屋と読んだ時に、心が売っている所があるのかと不思議に思い、この本を選びました。

このお話は、僕（ひろき）がゆうやをからかって先生に怒られてしまい、教室からいげだしてしまった僕の前にココロ屋とウツロイ博士が現れて、色々な心に取り替えていくお話です。

怒られた時に思うことなどひろきと私の考え方が似ているのですぐに世界に入り込んでしまいました。

私の心に残った場面は二つあります。一つ目は心の特徴です。ウツロイ博士の作った心はたくさんあって、ひろきが最初に取り替えた心は優しい心でした。優しい心は最初はいいけれど、みんながたよりにしてうそをついてまで接することになってしまいました。次に取り替えた心は、素直な心です。素直な心は素直すぎてまただめでした。最後に取り替えた心は温かい心です。温かい心は温かすぎて怒らせてしまいました。私は合う心がないじゃん！と心配になりました。

二つ目は自分の心です。ひろきはココロ屋を読んでいくと、不思議な色と形をしている心がありました。それは様々な心が大きな一つにまとまった天然の心だそうです。ひろきは「こういう心がほしい」とウツロイ博士に言う「あなたの心ですよ」と言われ、ひろきはびっくりしていました。ひろきは「でもなぜこんなに複雑な形だし問題をおこすんだろう」と言いました。私も、確かになんでこんなに大きいのに怒られたりするんだろうと思いました。するとウツロイ博士は「まだ若い心だからこれから心を育てればちゃんとした心に成長するよ」といって、ひろきは心も成長するんだとびっくりしたそうです。そしてひろきは考えてやっぱり自分の心にもどしました。

この本を読んで、一つ考えたことがあります。それは、自分の心を大事に育てていきたいことです。今はまだ若い心ですがすぐにムシャクシャして心を替えたいと思うかもしれないけど、心を大事に育てていきたいと思いました。

#### \*講評\*

主人公ひろきと考え方が似ているというところから共感し、物語に入り込んで楽しめたことがよくわかります。書名から内容を想像し、興味を持って本を選んでいるのも良いですね。「自分の心を大事に育てていきたい」という、作者が伝えたかったことであろうこともしっかりと読み取れていると感じました。さまざまな経験を通して、心を育てていきたいですね。

# 小学校六学年の部

## ☆ 優秀作

### 『藤原道長』を読んで



利尻小学校 六年 飯田 乃唯

私がこの本を選んだ理由は、社会の授業で平安時代を勉強していて、興味を持った人物だったからです。

藤原道長は九六六年に、藤原兼家の子として生まれました。道長は五男でしたが、感染症の流行で兄達が亡くなってしまったので、三十歳という若さで右大臣に任命されました。そこから「道長の時代」が始まりました。

娘達を天皇にとつがせ、娘達が皇子を生むと皇子が成人するまで、後見となりその皇子が天皇にそくいすると外祖父として権力をふるいました。道長の有名な歌に「望月の歌」というのがあります。「この世をば我が世とぞ思ふ望月の欠けたることもなしと思へば」というものです。

私には初め全く理解ができませんでした。調べていくと、自分の人生に満足しているという内容でした。今の時代にまで残っているような歌を詠める道長はとてもすごいと思いました。

平安時代の服装や食事にも興味を持ちました。お内裏様のような着物を着て頭にも冠という帽子を被っていてとても大変そうな衣服だと思いました。

浴衣でも歩きづらいのに、夏は暑くなかったのかと心配になりました。

食事では魚や野菜が中心だったようで、栄養がかたよっていたそうです。一日に二回しか食事をしなかったそうです。電気やガスのある今の時代とは全然違う生活をしていたことに驚きました。

乗り物は牛車やおみこし、馬だったそうで私も乗ってみたいと思いました。

一家はなんと東京ドームよりも広い敷地に寝殿と呼ばれる平屋に住んでいました。給料は約五億もらっていたというところにいちばん驚きました。こんなにもらって何に使っていたんだろうと疑問に思いました。

大きな家に住めたり、たくさんのお金をもらえる道長は羨ましいと思いました。

この本を読んで道長はとても羨ましい生活をしているなと思いました。電気やガスのない生活は私には考えられません。この生活はとても豊かなことに気付きました。

道長のことを、勉強してよかったです。

歴史がとても好きになりました。これからも興味を持った人物の本を読みたいと思いました。

#### \*講評\*

社会の授業で興味を持った人物・藤原道長について理解を深めようと本選んでいるのが良いですね。自分が生きている現代の暮らしと平安時代の暮らしを比較しながら、さまざまな事柄に興味を持って本を読んだのだと伝わってきました。今回の読書を通して、現代の暮らしが「とても豊か」であるという気付きを得たとともに「歴史がとても好き」になったという気持ちを持てたのは大きな収穫だったのでないかと思えます。ぜひさまざまな人物の本にふれ、その時代の歴史と現代を比較してみてくださいね。



# ★ 佳作

『余命0日の僕が、』

## 死と隣り合わせの君と出会った話



鴛泊小学校 六年 谷村 柁太  
たにむら しゅうた

この本を読んでこの本の主人公の「ぼく」は涙失病という涙を出したら死んでしまうかもしれないという怖い病気を抱えています。青い涙が特徴です。僕は、そんな病気があることを初めて知りました。

ぼくが病気を知ったのは六歳の時、お父さんに怒られほっぺをたたかれて泣いた時に青い涙が流れたのが始まりでした。子どもの頃は、痛かったり悲しかったりたくさん泣くことがあるのにこらえられる人生はすごいと思えました。

そんなぼくが高校二年生になり図書室で出会ったのが体のほそい「涼菜ちゃん」との出会いでした。本や映画でよく泣く子で映画研究会に入っている、放課後映画を見て泣くのが日課です。ぼくも誘われて研究に入ることになり、仲良くなっていききました。涙失病のことは秘密にしていました。

涼菜ちゃんの友達で、重度の貧血病で入院中の「桃花先輩」のお見舞いによく行き三人仲良くなりました。そして涼菜ちゃんが昔いじめにあい、かばってくれた双子の姉が標的になり、それを苦に姉が自殺したこと、涼菜ちゃんの家族が壊れてしまったことを知ったぼく。

そのことで涼菜ちゃんが二度自殺未遂をした過去があることも。

姉の命日に涼菜ちゃんが自殺してしまわないように守ろうと決めたぼく。泣くことはいいこと、そして喜びだと感じる涼菜ちゃんを映画を見て泣かせることに必死にぼくは、がんばりました。

もし自分が「ぼく」の立場だったら何ができるだろう…笑わせることは得意なのですが傷つけないで人を泣かすのは難しいです。いよいよ命日の日

です。お母さんと姉の墓参りに行った涼菜ちゃんは、お母さんが目をはなしたすきにいなくなっていました。ぼくも必死に探しました。

涼菜ちゃんは、高そうビルの屋上にいました。

本を読んだ自分は、飛び降りてしまうんじゃないかと嫌な予感がしました。

ぼくは涼菜ちゃんのことを好きなこと、涙失病のことを打ち明けました。

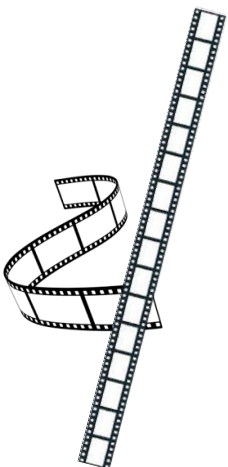
涼菜ちゃんが死ぬとぼくが泣いて命が危ないので心配になりましたが、二人とも生きることを選び、涼菜ちゃんは助かりました。

しかし次の日の朝、涼菜ちゃんは、亡くなりました。赤信号に飛び出し車にはねられたというニュースでした。

前の日約束したのどうして？と信じられませんでした。明るく元気に見えても、実はすぐつらくてギリギリの人っているかもしれないので僕は、そういう人に気づいてあげられる人になりたいです。後日涼菜ちゃんの事故映像がドラレコに映っていました。まさかの…青信号の横断歩道を渡っている姿でした。その瞬間、涼菜ちゃんは自殺じゃなかったんだと知ったぼくは、七年ぶりに青い涙が流れました。意識はなくなっていたけれど命は助かりました。「生きる」と約束したのは、うそじゃなくて良かったと思いました。

### \*講評\*

物語の展開を予想しながら、「嫌な予感」「心配」という言葉から心を動かして本が読めていたことがよくわかりました。主人公ぼくの奮闘する姿を通して、自分がぼくの立場であつたらどういふことができるかもしれない、と想像できているのも良いですね。ぼくが約束を破られてしまったような展開の先に、真実がわかり約束は破られていなかったことに安堵しているのも、作品に没入していたことが感じられました。



# ★ 奨励賞

『あいしてくれてありがとう』

利尻小学校 六年 川村 旭陽 かわむら あさひ



僕が選んだ本は、「あいしてくれてありがとう」というお話です。初めはどんな本だろうと手に取りました。お話の二行読んでみて、続きが気になりました。それは「僕たちおじいちゃんのこと、タイフーンと呼んでました」という一文です。このお話は、おじいちゃんにタイフーンというあだ名をつけた、てっぺいと姉のなな。その兄弟とおじいちゃんの日々楽しい思い出と、そんな日々の中で、急におじいちゃんが入院し、亡くなってしまおうというお話です。

僕が心に残ってる場面がいくつかあります。

一つ目は、おじいちゃん家に行くと、しょうじを張りかえるから古いしょうじに絵をかくていいと言われ、二人で大きな絵をかくという場面です。まず僕はしょうじを知りません。ママに聞きました。あんな大きなキャンパスに好きな物をかくのは楽しいだろうなと思いました。二人でなんでもなる木をかくていました。僕なら何でもなる木に一万札がなるといいなと思いました。あとは僕の大好きな牛タンです。お腹いっぱい牛タンを食べたいです。

二つ目はお祭りの日に雨で夜店に行けず、二人で残念がっていると、おじいちゃんが寝ころがって両手両足を上に上げて、布団を持ち上げテントみたいにしていました。中には大好きなりんごあめがありました。テントはとんだと布団で遊んでる場面もあって、おじいちゃんの知恵はすごいなと思いました。僕ならお祭りに行けないと落ち込んでいます。それを楽しくできるおじいちゃんはすてきだと思います。

三つ目は、最後のおじいちゃんが亡くなる場面です。てっぺいは亡くなったおじいちゃんの手をにぎって、体中が「ぎゅしん」ってしぼられるみたいみたくて、熱く痛くて、息もできないと表現しています。僕は今までその感覚に

なったことはありません。できればなりたくもないです。が、人はいつか必ず死にます。僕のおじいちゃんは元気に生きてます。いなくなることは想像できないし、考えたくもないです。てっぺいは強いです。大好きだったおじいちゃんと別れても、おじいちゃんどうしてますか？と空を見上げるそうです。きつとおじいちゃんもてっぺいの元気な姿を見て喜んでると思います。

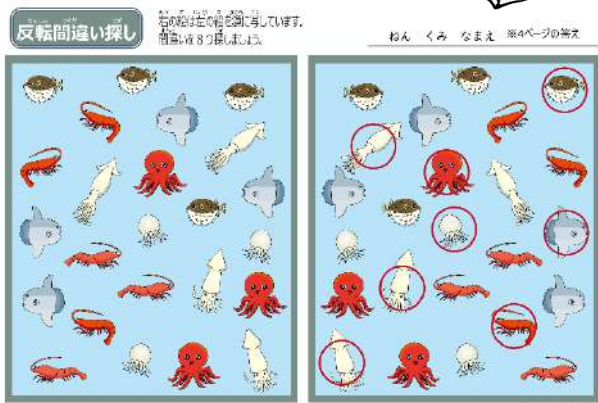
この本を読んで、大切な人とたくさん思い出があることは大事なんだなと思いました。僕の周りの大切な人たちにも長生きしてほしいです。

## \*講評\*

冒頭について、読み始めの印象的な一文とあらずしが上手くつながった文章だと思いました。心に残っている場面をまとめながら、「僕なら」と感じたことや考えをしつかり書けているのも良いですね。主人公てっぺいが経験したおじいちゃんの死を通して、「大切な人とたくさん思い出があることは大事」「大切な人たちにも長生きしてほしい」と身近な人と重ね合わせながら物語を読めていたことがよくわかりました。



## 4ページの答え





\*評価基準と講評について\*



○あらすじと読後の感想が書かれていることを基本とし、選書理由・自身の経験や境遇との比較・本から得た何かしらの気付きといった部分を深めている作品を選びました。理由としては、この部分こそ、その書き手にしか書けないものであると考えるためです。自分の言葉で書く、自分の考えを表明するといった自己表現ができる、自分の価値基準のようなものを形作っていきやすいのではないかと思います。小学生も基本はこの基準に沿って評価しています。

○中学生の奨励賞については、文章や全体の体裁について気になったことを指摘しています。

## 中学生の部

### ☆ 優秀作

#### 世界はカラフルだ



鴛泊中学校 二年 村谷 むらや 音羽 おとほ

なぜ人は表面的な部分だけでその人のイメージを簡単に作り上げてしまうのだろうか。その人の考えをまともに聞かず独断で解決してしまうのか。私のクラスメイトは小さい頃から現在まで変わらないクラスメイトだ。いつからか、自分の思っている意見も言わなくても伝わる、あの子はこう思ってるんだから、と自分でその人の考えを決めつけるようになっていた。そんなとき私は学校の図書室で「カラフル」という一冊の本に出会った。

この本は、前世に犯した罪によって、輪廻のサイクルから外された主人公が、前世で自分が犯した罪を思い出し、輪廻のサイクルに戻るため、自殺を図った少年、小林真の体にホームステイをするという物語である。彼の周りの人たちは、悪いと評価されるようなことをしてきて小林真が知らない間に傷つけていた。しかしその人と同じく向き合ったとき、理由だったり自分が勝手に独断で決めていたこと、善悪では捉えることができない部分がたくさんみえてくる。彼は前世では見つけようともしていなかった幸せやその人の良さも、ホームステイをしていく中で身近に幸せがたくさん転がっていたことに気づく。これを読んでいて、私の世界も同じだ、と思った。ちよつとのことですその人を知った気になってしまふ。表面的な部分でもうだ。彼の周りのクラスメイトと私は一緒だった。第一印象で彼は変わっている、とか暗くて地味だから一人で居たいんじゃないなど勝手に彼の雰囲気や容姿で決めつけてしまっていた。でも本当は彼とクラスメイトは一緒に「普通の男の子」だった。それを縛っていたのは周りからの言葉だったり印象だった。私はクラスメイトと同じ考え方をしていたので、自分ももしかしたら気づかないうちに人を傷つけてしまっていたり、苦しめてしまっているのかなと思った。そして、このような考え方は自分が損してしまうなと思った。友だちになれたり、話してみたら気が合うかもしれないのにその機会を一時きの思い込みでのがしてしまうのだから。もっとその人の中身を見てみたら面白いかもしれない、その人の性格を知った気になるのは中身を知ってからにしようと思った。

世の中には、得意なことと同じで、好きな人も同じで、同じ感性を持っている人は存在しないと私は思っている。けれど人間は、周りと同じがいいという思考からその人のことを深く知ろうともせず、表面的なイメージで自分に合うか合わないかを判断してしまうのだと思う。けれど、みんな同じよりも違う考え方のほうが自分にはないものを得ることができるし、自分とは違う個性を持った人とは互いに足りないものを補うことができる、この世界は、尊重しあい、新しい刺激をもらうことができ、支え合うことのできる、美しい世界だなと私は思った。

「カラフル」はそれぞれの色があって、個性的でいい、という楽観的な言葉で使われている。しかし、このカラフルには悲観的な言葉の意味も使われているのだ。私は思った。この世の中は答えのないものがほとんどだ。色んな良さがあり、同時に

悪い部分も見える。みんな、自分の中にはたくさん顔がある、そして色々な色を持って悩んでいる。これはみんな共通して言えることだろう。そして、自分が見たい世界だけを思い描いてしまう。良くも悪くも自分の想像で世界を作り上げてしまったり白黒つけたがってしまう。違う角度から見ればカラフルに見えることも、はっきり断ち割ってしまうから、周りのカラフルも、自分のカラフルも忘れてしまう。でもきれいな色も、汚い色も色々な絵の具を持っていて色々な色に悩んでいる人間だから新しい色が生まれて色とりどりの世界になるのかもしれない。

私が思ってるよりも世界はカラフルだった。

### \*講評\*

本の内容を的確に掴み、登場人物たちと自分の身の回りの環境を重ね合わせて自分の考えを展開できています。まず、感想文の導入の仕方がとても巧みです。問いを掲げた上で、その問いがどのような環境から生まれたのかよく伝わる書き方をしています。「小さい頃から現在まで変わらないクラスメイト」と過ごす中で「思っている意見を言わなくても伝わる、あの子はこう思ってる」という決めつけを、知らぬ間にしていたことに気付けたのはとても大きいと思います。また、最後に書名でもある「カラフル」という言葉の考察もしていて、この読書で感じ取ったことが深く自身に刻まれたのではと感じました。

どれだけ親しい人とでも、都度コミュニケーションを取ろうとしなければ本当の思いが伝わることはほとんどありません。考えや価値観もさまざまなことに変化していきますよね。多様性の時代と言われているにもかかわらず、人間は自分と異なるものを排したがる性を持っています。だからこそ、「みんな同じよりも違う考え方のほうが自分にはないものを得ることができ、自分とは違う個性を持った人とは互いに足りないものを補うことができる」という価値観を大切にしていってほしいです。



## ★ 優秀作

### 農業は楽しい仕事

鴛泊中学校 三年 種谷 たねや 海璃 みり



「日本の農業からどんな活気が失われていく」

これは「タガヤセ! 日本」という本に書かれている言葉です。みなさんは農業に対してどのようなイメージを持っていますか。きっと「大変そう」など、マイナスなイメージを持っている方が多いと思います。私も「農業=辛い仕事」だと思っていました。しかし、この本は農林水産省で働いている方が書いたもので、日本の農業の魅力や農林水産省の仕事について学ぶことができ、農業についての考えを改めることができます。実際に、私はこの本を読んで沢山のことを知り、農業の魅力に気づくことで、農業に対して持っていたマイナスなイメージが「楽しそう」というプラスのイメージに変わりました。その中でも特に印象に残ったことが二つあります。

一つ目は、「『自分で一から農業を新たに始める人』が二〇一三年頃から増え始めている」ということです。私は、一から農業を始めるのは何もわからない素人からしたら大変だし無理そうだと思っていました。実は、若い農家さんが少しずつ増え始めていて、初めて農業にチャレンジする若い人にとって、今は農業を始める絶好のタイミングなんだそうです。このことを知って「なぜ若い農家さんが増えているんだろう」と疑問に思ったのでインターネットで調べてみたところ、「『自給自足ができるから』『穏やかに過ごせそうだから』というように、農業に対するイメージがプラスの方向に向かっているから」と書いてありました。確かに、自分で時間をかけて育てたものは安心安全だし、一人でゆっくりと栽培できるので、気楽に楽しく取り組めそうだなと思います。

二つ目は、SNSを駆使して情報発信をする農家さんがいるということです。

みなさんは「農Tuber」という言葉を聞いたことはありませんか。「農Tuber」というのは、名前の通りYouTubeで農業関連の動画をアップする農家さんのことで

す。動画を見てみると、栽培方法やコツを教えているだけではなく、農家のリアルなところまで全て教えてくれるので、農業を始めたい人や家庭菜園が好きな人などにとっても役立つと思います。

また、「農」uber」だけではなく、この本を書いた農林水産省の白石優生さんが主に作成している「BUZZMAFF」というチャンネルもあります。「農林水産省がある」など面白く仕事を紹介していて、楽しく見ることができ、私はこの動画を見て農林水産省の仕事に興味を持つようになりました。

私は修学旅行の省庁見学で農林水産省の見学に行く予定です。この本を読んだおかげで農林水産省の仕事や日本の農業について知り、「もっと知りたい」と興味を持つようになったので、この本から学んだことをふまえて話を聞いたり、質問したりして、更に学び、その後にある学校祭での発表に繋げていきたいです。

また、農家さんとの直接的な関わりはほとんどありませんが、将来は管理栄養士になりたいと考えているので、日本の農業の特徴、情報を知ることによって仕事に役立てることもでき、沢山の人の栄養バランスの良い食事を提供できると思います。もつと農業に関心を持ち、これからの食生活に活かしていきたいです。

### \*講評\*

選書にはつきりとした目的があり、本で得た知識をさまざまな方向に広げて将来につなげていこうという意欲に満ちた感想文でした。まず、読み手を惹きつけるように問いかけをしつつ、読書の前後で自身のその回答が変化したことをあらすじと絡めてまとめられているのが素晴らしいです。この冒頭があることで、これからのような感想文が展開されるのか概要をまず知ることができず。結論から書くことわかりやすい、というものです。

また、本の中で疑問に感じたことを調べて解消したり、本の内容をふまえて修学旅行での見学計画を立てたり、文章の端々から「もっと知りたい」という知的好奇心が感じられたのも読んでいて気持ちよかったです。マイナスなイメージを持っているものについて、まず知ろうとすること。興味を持つって分野の事柄とはいえ、意外とできそうできないものですね。情報にふれることでその魅力に気付けることもあれば、やはり自分とは合わないと感じることもあろうでしょう。しかしその判断は、まず知ることからはじまると思いますので、これからもさまざまな本にふれてもらえたら嬉しいですね。管理栄養士になる、という夢をたどる中で今回の読書体験はいつか必ず生きてきます。

## ★ 佳作

『あの花が咲く丘で、  
君とまた出会えたら』



鴛泊中学校 一年 工藤 結菜

夏休み、読書感想文の課題があると知りながら本を選んでいなく、焦り、姉の本棚からなるべく薄くて、表紙がかわいい本を探し見つけました。

パラパラ読んでみると、この本は戦争時代にタイムスリップするお話で、八月六日に広島、九日に長崎に原子爆弾が投下され、大量の死傷者が出たニュースが今尚報道されていることから、この本の内容と似ているのかなと思いつつ最後まで読むことにしました。

親や学校、全てにイライラした毎日を送る、中学二年の百合。母親と喧嘩して、家を出て目を覚ますと、そこは七十年前の戦時中の日本にタイムスリップし、戸惑いながらも、まずは自分の寢床だけでもと探し歩いていたら、「ぼうくうごう？」と思うような大きな穴を見つけました。百合は母に戦争の時は、防空壕という穴をほり、敵の攻撃から身を守るためにあると聞いたことがありました。一人で防空壕に居たらそこに彰という男性が来ます。彰は通っている食堂に連れてってくれました。タイムスリップしてしまった百合は、どこにも行く場所がないので、食堂で仕事をしながら様々な体験をして行きます。そこに訪れる人の中で特攻隊として、戦地に飛び立つ運命の人達がいきました。その中の一人が彰でした。

私もし戦争時代にタイムスリップしてしまったら、百合のようにすぐ動けるだろうか。

今の私は贅沢だと思えます。なに不自由なく生活し、毎日「死」というものを覚悟することもなく、怯えながら生活することがないだけで、幸せだと思えます。

友達も親もない百合に優しくしてくれた彰に惹かれていく百合。そんな彰との生活が続いたある日、突然戦地へ行くことへの通達が彰たちに届きます。一週間

後に特攻隊員として向かうことを彰から聞かされた百合。負けたことを知っている百合は彰に対し、行かないでほしいと強く叫びます。でも彰は、「僕たちが行くことは、日本が勝つための使命だから。それを誇りに思いながら戦います。」と百合に伝えます。それでも百合は強く反対し続けたがとうとうその日がやってきます。特攻隊員として行く彰にどうしても向き合えなかった百合は、ギリギリまで見送りに向かいませんでした。でも、食卓の上に置かれていた手紙。それはみんなから家族への最後の手紙と知り、その中には彰からの「百合へ」と書いた封筒もありました。それを見た百合は、中を見るよりも、最後に一目、彰に会いたい思いから、彰のところへ向かいます。そして間に合った百合は、最後の力を振り絞り、「彰ー！彰ー！彰ー！」と何度も叫びます。手紙の中身を考えていたその瞬間、現実世界へ戻ってきませんでした。

本を読んでいるうちに、自分も小学校の時の戦争についての劇のことを思い出しました。私が小学校六年生の時の劇、「不言色の蛍」で演じた内容も戦争を体験したお話で、私は役でひめゆり学徒の役を演じ、そこには怪我をした戦士が運びこまれ、戦争の恐ろしさを役を通して学びました。

ミサイルのJアラート、ウクライナとロシアの戦いを映像として見ている中、最初は吐きそうなくらい恐ろしかったのに、今は慣れてきた自分があります。でも、実際は亡くなっている人がいるのだと改めて思っています。この今起きている戦争が、一日でも早く終わってほしいと願っています。

ラストは、百合が前の自分とは全く違う自分になり、社会科見学で行った「特攻資料館」で彰からの「手紙」を見つけるのです。とても驚く偶然でした。その内容を見て、百合は彰への感謝や愛がより一層強まったのです。届くはずのない手紙を見た百合はタイムスリップしたことを一生忘れないと私は思います。



**\*講評\***  
過去に自分が体験した戦争の劇「不言色の蛍」のことを思い出しながら、現在起こっている戦争に思いをめぐらせています。この本を通して、「戦争」に対する考えを深めているように感じました。劇でひめゆり学徒の役となつて戦争を疑的に体験したことは、主人公百合が戦時中の日本にタイムスリップした体験に少し似ている気がします。  
百合と彰の関係性に注目しながら、物語のラストに印象的に現れる「手紙」について言及できているのが素晴らしいですね。「届くはずのない手紙」と百合がめぐり会えたことは、タイムスリップした体験が夢などではなかったのだと思える描写かと思えます。手紙には何が書かれていたのか、この作品を読んでみたくくなりました。

**スマート農業**

ロボット技術やICTを活用して超省力・高品質生産を実現する新たな農業を実現



**新着情報**

- ★「スマート農業動画」に新しい動画「The for Tomorrow」が追加されました。
- ★「スマート農業をめぐる情報」について、を更新しました。

**コンテンツ**

1. スマート農業とは	7. 技術・新機・サービスの紹介
2. スマート農業実証プロジェクト	8. 導入事例・取組の紹介
3. 農業データの活用目的と仕組み	9. イベント
4. 農業支援サービス	10. 研究会・検討会
5. 農業用ロボットの普及拡大	11. 予見・実証推進
6. スマート農業の組織整備（ガイドライン・手引き）	12. 教育機関向けコンテンツ
	13. 関連項目（リンク）

出典:農林水産省 Web サイト  
(<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/smart/>)



# ★ 佳作

## 『楽隊のうさぎ』

鬼脇中学校

二年

澤田 さわだ  
奈美 なみ



この本は、引込み思案の主人公、奥多克久が中学校に入学後、吹奏楽部に入部し、個性溢れる先輩や友人、教師に囲まれ、戸惑いながらも音楽に夢中になって、全国大会を目指して日々練習する毎日を通して、やがて大会の日を迎えた克久は不安と緊張を克服しながら五十人の仲間とともに演奏をするという物語です。

私がこの物語を読んで特に印象に残った場面は、二つあります。

一つ目は、全国大会で音を調節しているときの場面です。なぜこの場面が印象に残っているかというと、この場面を読んだとき、私は思わず声を出してしまっただけです。この場面では、全国大会でスネア担当の祥子がスネアのスティックをなくしているところ、同じパーカッション担当で同級生だった克久が、他校からスティックを借りに行くところ、同じパーカッション担当で同級生だった克久が、他校からスティックを借りに行くところ、同じパーカッション担当で同級生だったとしても、絶対に借りに行くことはできなかったと思います。なぜなら、自分の出番の前で広い会場に出て借りに行く間に合わないと思うのと、他校の人に話しかけるのはとても緊張してしまうからです。ですが克久は、借りることができると聞いた途端、自然と体が動き、楽器を搬入してくる生徒と、楽器を搬出する生徒で違った返している中、他校の人と話して、最終的には借りていました。私は読んだ瞬間衝撃を受けました。なぜなら、引込み思案の克久が自然と体が動くのは少ないからです。私も、克久と同じで引込み思案であまり話さないタイプではありますが、ここまで行動に移してすごいなと思いました。そして、仲間のために動けるのも素敵だなと思いました。

二つ目は、克久が全国大会で曲を演奏する前の場面です。なぜこの場面が印象に残っているかというと、この場面は私が今まで体験したことと重なっているからです。それは、私が昨年の文化祭の器楽の発表のときに曲の最初に鉄琴を弾いたと

いうことです。この場面では、克久が担当の楽器のティンパニを曲の最初に叩くということに恐怖と沈黙で溢れているところ、そして、この場面には「突然、それは全く突然だったのだが、恐ろしいばかりの重圧が克久の両肩にかかってくる」ということが書かれてあります。その一語一句が私の体験したことと全く同じだったのです。私は体育館のステージの前に鉄琴を運んだその直後、突然その場面に書かれていたことが起こりました。ですが、演奏が始まったとき「克久は恐怖と沈黙が結合した暗闇の中から不意に自分から立ち上がるのを感じた。」ということが書かれてあります。このことも一語一句が全く同じでした。私はこの場面を読んだとき、思わず口を開きました。そして、それと同時に一瞬恐怖と沈黙が走るけど、始めれば一瞬で収まるんだなと思いました。去年の私はこのことには一つも気付いていませんでした。この場面は、今まで気付いてなかったことに、気付けた場面でした。

私がこの本を読んで思ったことは、なにかに夢中になることは大切なことということ、克久は最初は誘われて、悩んで吹奏楽部に入部しましたが、徐々に夢中になっていき、最終的には全国大会で演奏するほどになりました。それに、その中で同級生と話し合ったり、大会に出たりとたくさんの経験をしています。私がこの本を読んで、なにか考え方が変わったということはないですが背中を押されたような感じがします。なぜなら私も夢中になっているものがあるからです。それは「ダンス」です。最初はあまり興味がありませんでしたが、たくさんのステージに立つことに踊る楽しさを覚えました。私はこれからも夢中になることの大切さを忘れずに、たくさんの経験をしたいと思いました。

### \* 講評 \*

あらすじや印象的な場面の言及、自身の体験との比較、読後の感想がしっかり書けており、文章全体のバランスが良かったです。「私の体験したことと全く同じだった」と印象的な場面と自分の体験を重ね合わせることで、その瞬間に物語の中の出来事を追体験したのではないのでしょうか。「思わず声を出してしまった」「思わず口を開きました」と心を動かしながら本を読んでいたことがよくわかる感想文でした。また、「今まで気づけてなかったことに、気づけた」と当時にはわからなかった感覚が本を通して理解できた」とも綴られており、本と良い出会いをしたのだなと感じました。

本から感じ取った「なにかに夢中になることは大切なこと」という気づきを活かしながら、ダンスを含めたさまざまなことに夢中になってほしいと思います。

# ★ 佳作

## 『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら』を読んで



鴛泊中学校 三年 高橋 うた たかはし

私は、なんて、恵まれた時代を生きているんだろうか。

親や学校、窓の外から聞こえる蝉の声にすら苛々していた中学二年生の百合は、ある日、お母さんと喧嘩をして家を飛び出してしまふ。寝床がなくなってしまう。百合は、住宅街の外れの住民たちがあまり近寄らない防空壕で寝ることになった。次の日の朝、目を覚ますとそこは七十年前、戦時中の日本だった。何が起きているのか分からず、混乱していた百合は偶然通りかかった彰に助けられ、彼と過ごしていくうちに、百合と彰は互いに惹かれていく。しかし、彼は死ぬことを覚悟した特攻隊員だったのだ。

私はこの本を読んで、どれだけ自分が、恵まれた時代で、恵まれた環境で生きているんだろうと痛感した。毎日お腹いっぱいのご飯を食べることができ。毎日学校に通って勉強したり、友達とくだらない話ができる。毎日お風呂に入ることができる。これらは現代の私たちにとって当たり前だと感じるかもしれない。だが、戦時中は、大事な着物や家財道具を売り払ってまで必死に食べ物を掻き集めて命をつないだ。学徒動員によって授業は停止され毎日工場で働いて、お風呂だって四、五日間に一度しか入れない。こんなに懸命に生きているのに、この時代では、無慈悲にも無差別に人は殺された。

私はこの本を読んでいて、すごく辛く、悔しくなった。愛する人たちのために自分を犠牲にして戦う特攻隊員たちが、なぜこんなにも優しく暖かい人たちが、死に征かなくてはならないのか。今を生きる私に彼らのためにできることは何もないのだろうか。

私は今、あなたが守ってくれた未来を生きています。あなたが願った、明るい未来を生きています。素晴らしい未来を私たちに残してくれてありがとう。あなたたちのことは絶対に忘れません。あなたたちの犠牲は絶対に忘れません。あなたが命を懸けて守った未来を、私は精一杯に生きます。どうか、安らかに眠ってください。

これらの言葉は百合が、七十年前の日本へ行った時に出会った特攻隊員たちに向けて送った言葉だ。私はこの言葉に強く共感した。だから私は、自分に何かできることを考えた時、戦争を絶対に忘れないようにしようと思った。とても簡単なことかもしれないが、とても大切なことだと思う。

現代でも、ロシアとウクライナの戦争が起きている。世界では紛争が絶えない地域もある。きっと今この瞬間も苦しんでいる人たちがいる。私はこの本を通してこんなことに気付いた。私たちが何気なく送っている毎日は、当たり前じゃない。すごく恵まれていて、感謝しなければいけないことだ。

毎日働いて、洗濯や掃除をして美味しいご飯を作ってくれる両親にありがとうと伝えよう。

学校生活を支えてくれている先生にありがとうと伝えよう。ぶつかり合ったり笑い合える友達にありがとうと伝えよう。

明るい未来を守ろうと命を懸けて戦ってくださった方々を忘れず、平穏な暮らしに感謝して、私はこれからも生きていく。

### \*講評\*

戦時中を舞台にした作品を読んで「すごく辛く、悔しくなった」「優しく温かい人たちが、死に征かなくてはならないのか」と感じることは多いかもしれませんが、さらにその先に「今を生きる私に彼らのためにできることは何もないのだろうか」と考えられていることに感銘を受けました。そして、できることとして「戦争を絶対に忘れないようにしよう」という答えを見出しています。風化させず未来に伝えていくことが大切ですね。

また、「現代でも、ロシアとウクライナの戦争が起きている」と時事にもふれ、「何気なく送っている毎日は、当たり前じゃない」と日々の尊さに気付いています。過去の過ちを繰り返すが人間ですが、歴史から学び変えていくのもまた人間なのではないかと思えます。

# ★ 奨励賞

## ぶつかり合い

鴛泊中学校 一年 須田 海司



「『シークエンス緊急停止せよ。保安コマンド、オン——』」

「発射後二百十二秒、セイレーンは——海へ還った。」

これは、「下町ロケット」という本の中の一部の文だ。

私は、この本を両親にすすめられ、読み始めた。

「『いよいよだな。ああ、なんだかドキドキしてきたよ。』」

という文から話が始まり、私は一気に話に引き込まれていった。

この話は、主人公の佃航平が開発したエンジン「セイレーン」が、実験衛星打ち上げロケットに搭載されるも、そのロケットの発射実験は失敗に終わり、その後、亡くなった父の跡をついで中小企業の社長となった佃が、社員たちと共に、数々の困難に立ち向かっていくという話である。

佃が社長を務める中小企業である佃製作所の売上は、佃が社長になったことで三倍に伸びたのだが、突然、主要取引先である京浜マシナリーから、取引終了を告げられ、売上の一割を失うことになる。このままでは赤字になってしまうが、銀行からの融資を受けられない。そんなときに、小型エンジン分野でライバル関係にある、ナカシマ工業が、佃製作所のエンジンが、特許侵害だと訴えてきた。小型エンジンの売上への影響は、約三割なので、販売中止となれば社業が行き詰まってしまう大ピンチだ。しかし、佃は社員たちと冷静に考えて、乗り切る。もし、自分が、このような状況におかれたら、このように冷静に考えることはできないことはないと思うが、負ければ、社業が行き詰まるようなことなので、まず、焦ってしまうと思う。そのため、このように、社員たちと共に考え、乗り切った佃の仕事に対する熱意に驚かされた。

ナカシマ工業との裁判の決着がついたと思えば、次は大企業である帝国重工だ。帝国重工は、特許で佃製作所に先を越されたため、佃製作所の特許を売らせようとするが、佃は特許使用という形に持ちこむ。しかし、元妻である沙耶の、「『あら、重工のプロジェクトに参加するんじゃないの？当然、そういう話に持っていくのかと思っていたけど』」という言葉で佃は、部品を供給したいという考えに変わる。結果として、佃製作所のバルブシステムを搭載したロケット、「モノトーン」は、佃たちの夢をのせて飛んでゆくこととなるのだが、そうなるまでに、様々な問題があった。

私はこの、ロケットを飛ばすまでの、社内でのぶつかり合いや、帝国重工との理想の違いが描かれている部分が一番心に残った。

なぜならば、社内の対立や、帝国重工との理想の違いなど、相手と自分の意見が違っている、遠慮することなく、自分の意見を相手に伝えていく、佃製作所は、一人ひとりが自分の意見を伝えたいからこそ、最も良い選択をすることができたのではないかと思う。

このように、「自分の思いを相手に伝える」ということは、日常生活において、非常に大切なことだと思う。

自分たちの意見を伝え合い、正面からぶつかり合う。

意見を伝え合うことの大切さを「下町ロケット」は教えてくれた。

### \*講評\*

心に残ったという「社内でのぶつかり合い」や「理想の違い」によるぶつかり合いの部分、タイトルとして使っているのが良いですね。そのぶつかり合いの物語を読み、気付いた「自分の意見を相手に伝える」を日常の暮らしの中でも活かして行ってほしいです。

内容がわかりやすく、要約も上手いと感じました。冒頭の引用に対する感想や思いがあるとより良いと思いました。

# ★ 奨励賞

## 前向きに考える

鴛泊中学校 一年 中山 智晴  
なかやま ともはる



僕は、「田中将大から学ぶ負けない気持ちの創り方」という本を読みました。なぜこの本を読んだのかというと、僕は野球をやっているからです。夜に大人のひとと試合をやらせてもらっています。試合では投手をやっていますが、ヒットを打たれたときやフォアボールでランナーを出してしまったときに、やる気をなくしたり今までは思いっきり投げれていたのに、ストライクを置きに行ってしまうって結局打たれてしまうということが増えていました。そして、読書感想文で読む本を探していたらこの本を見つけ、この本のタイトルを見たときに、今の自分にぴったりなのかもしれないと思ったので、この本を読むことにしました。

この本は、野球選手の田中将大さんの言った言葉の中から100個の言葉に絞り、その言葉から読み取れることを、見玉光雄さんが負けない心理・行動・パターンやどんなことを言っているのかをわかりやすく解説してくれています。

僕がこの本のたくさんある言葉の中で、一番心に残っている言葉は、100ページ、101ページの42個目の「ピンチを楽しむ」というところです。このページでは、田中さんが試合における心構えを語ったときに言った、「流れが悪いときは、(自分で変えてやる)と思っています。」という言葉を解説してくれています。この言葉を最初に見たときは、田中選手はなんでこんなにポジティブでいられるんだろう、自分もこんなふうになりたいと思いました。なぜこの言葉が心に残ったのかというと、最初に言ったように、僕は自分が不利な状況になったときに、「無理かも」とか「早く終わって」などとネガティブな思考になってしまいます。それだけではなく、野球以外のことでもそうなるってしまうことがあったからです。だから、この言葉を見たときに田中選手みたいにもっとポジティブに自信を持っていられるように、なれたらいいなと思いました。このページでは、「逆境が自分を育ててくれる!」という言葉が何度

か出てきます。僕はこの言葉を見て、確かに田中選手のようにピンチをチャンスというように前向きに考えられたら、僕はもっと、野球の楽しいところを見つけられたり、試合でもランナーが出たからと言って、自信をなくすのではなく、今の自分がこのピンチでどれだけ踏ん張れるのか試せるチャンスだと思ってポジティブに考えたりすることができると思いました。このポジティブに考えることは、野球だけではなく日常生活や色々なスポーツにも大事なことでと思います。たとえば、ネガティブに考えると本当は自分ではできるのに、失敗するのが怖くなってできなくなってしまいます。しかし、ポジティブに考えると今いることにとどまらないで、どんどん先に進んで新しいことにチャレンジしようというふうになられます。また、ポジティブに考えると、失敗しても「失敗は次に生かせる」というふうにも考えられます。ポジティブに考えると自分が更に成長していけるので、僕は失敗してもダイジョブーや次に活かそう!と前向きに考えたいです。

僕はこの本を読んで、ポジティブに考えることは、とても大切だと思いました。野球以外でも、失敗したからずっと自分を責めていると、周りの人の気持ちを暗くさせてしまったり、自分に自信がなくなってしまうでも暗くさせたりしてしまうと思います。でも、自分のいいところばかり、考えていてもそれ以上頑張ろうとは思えないし、そこで満足してしまうので、良いところと悪いところの反省を「どぐらいの割合で過ごせたらいいと思います。良いところに注目するけど、今日の悪かったところにも注目して反省していきます。この本を読んで、僕の野球のできる時間はまだまだ長いので、トレーニングをサボらないで、ピンチになってもポジティブに考えて田中選手のように「これは自分の成長のチャンスだ!」とポジティブに思えるような選手になりたいです。

### \*講評\*

本を選んだ理由が良いですね。つまり、自分の自分を少しでも変えようとしているのが伺えました。本に書かれた言葉と自分の体験を照らし合わせながら、今の自分に足りない部分を補えるようなものを本から見出すことができたのではないのでしょうか。

心に残った言葉について書いている段落が少し長いように感じました。段落換えを意識すると文章全体にメリハリができて、読み手が読みやすくなります。



# ★ 奨励賞

## 健康について



鴛泊中学校 一年 福士 希愛

「健康」とは六十兆個と言われる細胞の隅々まで質のいい血液を流すこと。それを妨げるのが自律神経の機能を低下させてしまう程度のストレスや腸内環境の悪化だといふ本を読んでよくわかります。

私自身も「自家中毒」という病気があります。症状としては、「頭痛、だるさ、吐き気、食欲の低下」などあって自分でもいつなるかわかりません。でもストレスや疲れなどがわからないうちに自分の中でいっばいになると出てくるようです。この本を読んで自分とは、違う症状なのかなあといい読み込んでみると少し似ている感じがしました。疲れたり、落ち込んだり、眠れない、朝起きるのがつらいとかあるみたいで少し似ているなと思ったからです。気持ちが緊張したりすると気持ちがこわばって体もこわばってしまうんだよ？って入院した時病院の先生に言われました。だからまず、「早寝、早起き」「リラククス、リラククス」水があったら水を飲むと内臓を刺激していいんだよ！って教えてくれました。そしてゆっくり呼吸してごらん？きつと大丈夫だよと看護師さんも言ってくれたのを覚えています。中学生になって生活も変わってはじめは、気持ちが辛い日が続いて悩んだりしたけれど深呼吸したり、辛い時は素直に言ってみて、今は元気に生活しています。

この本の作者も自分で辛い時があり、いろいろ研究して、わかったと言っています。私も辛い時があるけれど自分のできる範囲で焦らず自分らしく生きていきたい！といふこの本を見てまた思いました。健康が一番だから自分らしく進んでいきたいです。

本の中でもみんな私と思うことは、同じのようです。しかし自分が考えて思っているとも思い通りにならなくて諦めてしまったり余計に自分で自分を苦しめて悪化させてしまったり入院する人も多くいるようです。私も自家中毒で大きい病院に一週

間入院しました。たくさん検査もしました。体力が落ちていてあるはずフラフラだったので車椅子での移動でした。入院中は、ずっと毎日点滴をしたままで体力がないのももちろんお風呂も禁止でした。入れたとしてもフラフラなのできつと無理だったと思います。ご飯も食べたたくて口に入れてもなかなか飲み込めず少しすると吐いてしまったりその繰り返しでした。本の中でも、動きたいのに体が言うことを聞かずだるくて何もできない、でもやらなきゃ、食べなきゃと知らず知らず焦ってしまったり自分で自分を苦しめて追い込んでしまっている。その繰り返しからなかなか抜け出せないのが本当に辛いことなんだと私もすごくわかります。この本を読んであのときの自分を思い出して少し辛くなつたけど、私は、家族に助けをもらって今は、めったに自家中毒の重い症状は出ません。でも油断してストレスをためて疲れると軽く症状が出ますが家族がわかっているのですぐ対応してくれるので本当に助けをもらっています。このような病気は一人で治すのは本当に大変だと自分では思います。一部気持ちの病気ででもあるので素直になって辛いとか言える強さが大切だと私は考えます。同じ気持ちの病気で苦しんでいる人がいたら私に何ができるかわからないけど話を聞いたりしてあげたいなと思います。人の支えは本当に一番大切だと私も病気になってとても思ったことです。本の人も助けられて治ったので、やっぱり人のつながりも大切な宝物なんだと思いました。

### \* 講評 \*

本に書かれた内容と自身の経験を照らし合わせて読書ができています。自分の症状と本に書かれた症状を比べながら共通点を見出し、本を通して「自分のできる範囲で自分らしく生きていきたい」と勇気づけられていることがわかりました。

「って教えてくれました」のように書き言葉ではなく話し言葉になっているところが少し気になりました。また、人の言葉を括弧「」でくくるともつと読みやすくなると思います。

# ★ 奨励賞

## 『清浄島』を読んで



鴛泊中学校 二年 黒川 結風 くろかわ ゆうな

皆さんは、「エキノコックス」という言葉を耳にしたことはありませんか。「エキノコックス」という言葉を聞くと、数多くの人がキツネをイメージすると思います。

この本は、私達が住んでいる利尻島の隣の島、礼文島で山火事が起きたところから始まります。

私は母に連れられ、礼文島内を観光することが多くあります。母は自然に詳しく、一緒に歩きながら、礼文の魅力は、「ウスユキソウ」や「レブンアツモリソウ」などの沢山の花が見られるところなんだと教えてくれます。私が読んだ本にも、礼文の魅力の一つとして、多種多様な花を見ることができ、標高の高い山に登らなくても色々な高山植物が見られるところだと書いてありました。私はそれを見た時、いつも身近に見ていたあの花々が、本当は一生懸命に山を登った先にあることを知り、とても驚きました。それと同時に、島外からやってくる人たちは、こういうものを見に来るんだなど実感することができました。私達の住んでいる利尻島も、自分たちが当たり前だと思っただけで、本当は、簡単には見ることができない、珍しいものだからこそ、色々な観光客が訪れに来てくれるのだなと思いました。

また、この本には、礼文島で未知の感染症があったと書かれています。その原因になったのが山火事でした。礼文島で、原因不明の山火事が起き、それにより、たくさん木々が燃えて灰になってしまいました。昔のストーブなどには、木材を使用していたことから町人は植林を始めますが、山火事で餌がなくなってしまったネズミたちが幼木を食べてしまい、ネズミを捕まえるため、キツネを放ってしまったのがきっかけで、「エキノコックス症」という病に悩まされます。私は最初、エキノコックス症はキツネだけから発症すると思っていましたが、この本を読み進めていくと、イヌやネコなどにも発症すると書いてあり驚きました。エキノコックスは、もともとはネ

ズミの体内にあり、それを食べたキツネやネコ、イヌなどに発症するらしいので、ネコやイヌも気をつけていかなければいけないなと思いました。このエキノコックスが、どの動物に発症しているのかを調べるために、研究者の土橋先生は、何回も何回も解剖を重ねますが、なかなか発症している動物がわかりませんでした。けれど、街の人達の期待に応えるために、諦めずに繰り返し取り組みます。

私は、勉強や部活で何回も失敗してしまったり、うまくできないことがたくさんあります。落ち込んで立ち上がれないことや、諦めようと何度も考えますが、そんな時、友達や学校の先生、親の支えでまた頑張ろうと思えます。この本に出てくる土橋先生も街の人達にたくさん支えられて、何度も諦めずに頑張っていました。初めは、土橋先生の何度も頑張る姿勢がすごいなと思って読んでいましたが、読み進めていくうちに、支えてくれる街の人達がいたからなんだなと気付かされました。なので私は、困っている時や諦めようと考えている時に支えてくれる人達を大切にしようと思いました。いつも支えてくれる人がいるお陰で、挫折そうになった時でも、立ち上がることができると、それに感謝していかなければいけないなと思いました。また、自分が話を聞いてもらい、感謝するだけでなく、自分も誰かが困っている時に話を聞いてあげられるような人になりたいと思いました。

私は、来年になると三年生になり、委員会や部活動などの色々なところでリーダーを任せられる機会が増え、一年生や二年生に支えられながらも皆をまとめていかなければいけません。そんなときに、困っている人や悩んでいる人を見れば、見るだけではなく、手を差し伸べてあげられるようなリーダーになれるように頑張っていきたいです。

### \*講評\*

隣の島である礼文島の作品を選んでおり、郷土への関心があるように感じられました。研究者である土橋先生の「何度も頑張る姿勢」に感銘を受けながら、その活力となっているのは「支えてくれる街の人達」の存在なのだと気付けたのも良いですね。

それぞれの段落はわかりやすく書かれています。段落と段落のつながりや順番を見直すとよりスムーズに内容が入っていると感じました。

# ★ 奨励賞

## 『聲の形』を読んで

鬼脇中学校 二年 府録 ふろく あかり



なぜこの本を選んだかという映画で初めて見たとき衝撃的だったことと考えさせられる場面がとて多かつたからです。そしてその後本屋に立ち寄った際に目に入ったからです。

「聲の形」という作品は人間関係における後悔について描いた作品です。

耳が聞こえない少女・西宮硝子と、かつて彼女をいじめていた少年・石田将也が、過去と向き合い周囲の人々との関係を見つめ直していくという内容のストーリーです。もちろん、西宮硝子をはじめたことを石田将也が後悔しているのですが、西宮硝子側も彼女なりの後悔を抱えています。また、石田将也と西宮硝子以外にも、当時おなじ小学校の友達だった人、今の高校での友達など、さまざま登場人物が現れますが、どの登場人物も特有の後悔を抱えています。私も過去の人間関係で後悔ばかりしているのでとても心あたりがあります。

この本で特に心に残ったところの一つ目は西宮硝子が石田将也に思いを伝えるシーンです。

硝子と将也との距離も縮まり帰り道にたまたま会って。そこで硝子から「好き」と告白されます。ですが将也は「月」だと勘違いしていません。まず硝子が勇気を振り絞って伝えようとしたのが心に響きました。そしてこの二文字さえ伝わらないことがとても切なく思いました。二つ目は将也が硝子に言った「君に生きるのを手伝ってほしい」というセリフです。飛び降り自殺をしようとした硝子を将也が助けますが、その拍子に自分が転落して意識を失ってしまいます。硝子が誰かに必要とされているということを知った大きな場面だと感じました。三つ目は顔に印されていたバツ印が消えるシーンです。将也はずっと下を向いていた顔を上げ、耳を覆っていた手を離します。その瞬間、道行く人の声が聞こえはじめ、顔に印されていた

バツ印がとれます。相手が自分のことをどのように思っているのか、何を考えているのかということをも自分勝手に解釈するのはやめ、諦めていたコミュニケーションを、再び信じようと思ったわけです。このとき将也の耳に入ってきた声は、決して全てポジティブなものではありませんでした。将也はポジティブな声も、ネガティブな声も、どんな形の声であろうと、全てを受け止める決意をしました。凄く感情移入できるシーンだなと思いました。

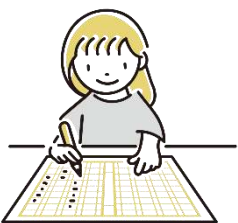
この本を読んでコミュニケーションの難しさを感じました。例え耳が聞こえなくても、私たちはコミュニケーションを完璧にとることは難しいです。その中でも自分と向き合って、自分なりのコミュニケーションの形を見いだせていたのが本当に凄いなと思いました。私は自分と向き合うことがあまり得意ではないのでこれを見てがんばろうと思えました。そしてこの本をまだ読んだことのない人は読んでほしいと思います。いじめなどのシーンもあり心が痛みますが、いじめはどんなに良くないことがわかるし、もしかしたら自分を変えるきっかけをつかめるかもしれません。

私はこの本で学んだことを忘れず生活していきたいです。

### \*講評\*

心に残ったところの一つ目で「この二文字さえ伝わらないことがとても切なく思いました」と書いていますが、この「さえ」という言葉を使った表現に惹かれました。切ない気持ちをよく表していると思います。

感想文として内容はしっかり書いていますが、一文が少し長いと感じることがありました。読点「、」を入れたり、一文を短くできるような言葉を選んだりとさらに読みやすくなると思います。



『どうして読書感想文を書くのか』

第三十七回読書感想文コンクール審査アドバイザー

淡濱社 濱田 実里

読書感想文、お疲れさまでした。取り組んでみていかがでしたか。スムーズにできた人もいれば、苦戦した人もいると思います。ひとつの作品を読んで、自分の言葉で感想を書く。なかなか難しいことですよ。私も小学校のときに書いた覚えがありますが、どちらかと言えば苦手な課題でした。

どうしてこのような課題に取り組むのか。皆さんの読書感想文を読みながら、そんなことを考えていました。

簡単に言うと、少しでも本にふれて、読書を通してこれから生きるための力を養ってほしい。そんな大人からのお節介だと思ってもらえればいいです。それでは、詳しく書いていきますね。

①本を読むきっかけをつくる

楽しいものがお金をかけずに手に入る時代。楽で面白いコンテンツがあふれる中、わざわざ本を手取る必要があるのか。そう思いますよね。けれど、手間のかかるものこそ、人間には必要なのです。それはこれから説明しますね。

本が好きな人ももちろんいると思います。そんな人は、普段読まないものにふれるきっかけにするのも良いかもしれません。これからもたくさんの本に出合っていきましょうね。

②自分で考える練習になる

自分はどう思ったのか。どう感じたのか。主人公はどうしてこのような

言動をしたのか。作者は何を伝えたかったのか。書かれた文章を読んで、皆さんもいろんなことを考えたと思います。それを何度もすることで、思考力というものが鍛えられていきます。

主人公と自分を置き換えたり、共感したりすることは想像力も養ってくれます。想像力が豊かだと不要な争いを引き起こしづらくなります。

③自分の考えを言葉にする練習になる

あれこれ考えたものをそのままにしていると、いつの間にか忘れてしまっています。考えは目に見えないものなので、見えるようにしたいですね。そしたら忘れても見れば思い出せる。その方法が「言葉にする」なのです。言葉にできれば書き残すこともできるし、誰かに伝えることもできます。

嬉しかったこと、楽しかったこと、嫌だったこと、腹が立ったこと。それを言葉にできると感情をコントロールすることにもつながります。

④正解がないことに向き合う練習になる

学校の授業で学ぶことは、大体決まった正解があると思います。それを覚えて、答える。これも大事な経験です。しかし、生きていると正解がないことに向き合わないといけない時があります。その時、自分で考えて行動ができるか。いつか来るその時のための練習でもあります。

ここまでが私の考える読書感想文に取り組む理由でした。なかなかすぐには実感できないかもしれませんが、それでも確実に、皆さんの中で「力」が育ちます。少しずつ育てていきたいですね。

なじみのない人間からの言葉を、ここまで読んでいただきありがとうございます。隣町にいる本好きからでした。



【第三十七回 読書感想文応募校と応募数】

■小学校一学年の部

鴛小 二点  
利小 一点

■小学校五学年の部

鴛小 三点  
利小 五点

■小学校二学年の部

鴛小 四点  
利小 〇点

■小学校六学年の部

鴛小 二点  
利小 八点

■小学校三学年の部

鴛小 一点  
利小 五点

■中学校の部

鴛中 三十二点  
鬼中 十二点

■小学校四学年の部

鴛小 一点  
利小 六点

小学校計	三十八点
中学校計	四十四点
合計	八十二点

(一次審査) 応募作を部門ごとに分けて、名前や学校名などを消した状態でまずは各審査委員が全作品を審査し、小学校は学年毎に五編程度、中学校は全体で十編程度に絞りました。  
(二次審査) 一次審査の結果を参考にして、審査アドバイザーが各賞を選出しました。アドバイザーも同じ条件で審査しています。  
(審査会) 教育長にも参加していただき、各賞を決定しました。

【審査アドバイザー】

淡濱 社……濱田 実里 さん

【審査委員】

利尻富士町教育委員会

山谷 文人 富岡 未佳 熊谷 卓耶

【表紙イラスト】 辰巳 富雄 さん

●令和五年度 第三十七回読書感想文コンクールを終えて

読書感想文コンクールに、応募していただいた児童・生徒の皆さん、ご協力ありがとうございました。

加えて淡濱社の濱田さん、各学校をはじめ本事業に関わってくださったすべての皆様に心から感謝申し上げます。

今年から審査手順が変わり、応募作すべてを楽しく読ませてもらいました。「審査委員」と文字にすると、たいそう偉そうに感じるかもしれませんが、そうではありません。なぜなら……私の審査基準は「なんか好き」と思った順番に〇を増やしていっただけだから。

そう聞くと「はー」苦笑して書いたのに、そんな適当に」と怒られるかもしれません。でも、私は先生ではないので文章構成やわからないことで評価できないので。「この表現が好き」「へー」こんなことを考えているんだ」と私を感じたことをそのまま「適当」に評価しました。もちろん、いい意味の「適当」ですよ。

令和五年十一月発行

利尻富士町教育委員会 企画管理係 熊谷 卓耶



**私のペースでしおりは進む**

2023 第77回 読書週間標語